

大腸がん既往者の二次予防にアスピリンと大腸内視鏡検査

University of California San Diego の Dulai らは、大腸がん既往のある患者における、低/高用量アスピリン・非アスピリン NSAID などの薬剤による進行性後発がんの予防効果を評価する研究のメタ解析を行い、British Medical Journal に発表しました。



15件の研究データ（ $n=12,234$ ）を解析した結果、非アスピリンNSAIDの予防効果が最も高く（オッズ比:0.37）、低用量アスピリンが続きました（0.71）。



一方、安全性については低用量アスピリンが優れ（0.78）、非アスピリンNSAIDは劣っていました（1.23）。



アスピリン・NSAID の大腸がん予防効果は確立されており、アメリカ HealthPartners Institute のタスクフォースは、一部個人で大腸がん一次予防のための低用量アスピリン服用を推奨していますが、こうした知見を二次予防にまで適応できる可能性が示されました。



低用量アスピリンと大腸内視鏡検査を組み合わせることにより、大腸がんのさらなる予防効果も期待されます。